

令和3年度 自己評価

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号

15

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。		
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 「ICTを活用した学習活動等が学習の理解につながっている」と回答した生徒が73%、「一人一人の能力に応じた指導を行っている」と回答した生徒が78%と増加しておりICTを活用した協働的な授業、一人一人に対応した学習補充等の成果と考えられる。 「テストの得点だけでなくいろいろな面から学習評価を行っている」が当てはまらないと回答した生徒が増加しており、今後の課題であると考ええる。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、これらを活用し、課題を解決するための思考力、判断力、表現力を育成する。 ◇学習の過程や成果の適切な評価ができるよう、ルーブリックの活用を推進する。 ◇学校全体の情報環境を整え、ICT機器を利用した効果的な授業を推進する。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善にICT機器を効果的に活用できるよう、教務部内に情報推進の係を位置づける。 ・他分掌、教科、学科との連携を図り授業研修会や教科研究会を推進する。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) ICT推進委員による研修会への参加と研究授業の実施 (2) 教科、学科内の授業改善に向けた研究会	(1) 学校評価アンケートの結果 (2) 授業アンケートの結果 (3) 各教員の自己評価		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器やMetaMoJi、manaba等の学習支援ソフトを活用した効果的な授業の実施 ・ICTを利用した研究授業と研修会の実施 ・各教科、科目における基礎的基本的な知識・技能を確実に習得させる授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①ICT機器を利用した効果的な授業が推進できたか。 ②毎時間の授業の到達目標に合った授業が展開できたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>	
成果・課題	<p>○ICT機器の活用がより一層進み、オンライン学習支援を支障なく展開することができた。また一斉登校後もオンライン学習支援を継続することができた。</p> <p>○昨年度の課題であった、MetaMoJi、manaba等の学習支援ソフトの積極的活用がすすみ、課題の提示やレポートの提出等にも利用できるようになった。</p> <p>○百問繚乱の導入により自動採点が可能となり、採点業務等の時間短縮を図ることができた。また、問題別の正答率も容易にわかり学習指導に活かすことができるようになった。</p> <p>▲学習評価についていろいろな場面での評価について生徒にわかりやすく伝えることができていない。来年度より評価観点が3つに変わることもあり、生徒にどう評価について示していくのか、シラバスの提示の仕方も含めて検討していく必要がある。</p>		<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度教育課程の実施に伴い、3観点別学習評価の在り方のさらなる研究と推進。 ・MetaMoJi、manaba等の学習支援ソフトを利用した研究授業や授業研究会の実施。 ・ペーパーレス化、オンラインの活用、百問繚乱の活用等、情報機器の有効利用を推進し、働き方改革を進める。 ・生徒向けタブレットの破損に対するの対策。 ・教科横断的な指導のための教科をまたぐ授業研究の交流。 			

令和3年度 自己評価

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号 15

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。
----------	--

2 評価する領域・分野	◇ 生徒指導・教育相談
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	いじめや差別に対する対応について、前向きな評価が増加している。本年度からいじめ対策組織の有効な活用により、きめ細かな適切な対応が要因となったと考えられる。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 基本的生活習慣(岐農三訓)の指導徹底 (2) 生徒の安全と命を守る教育の推進 (3) 教育相談の充実 (4) 人格形成の促進
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導委員会、生徒指導部会、いじめ対策組織、いじめ防止等対策検討会議、特別支援委員会、人権同和委員会を通して、教員間の共通理解を図る。

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 遅刻指導、身だしなみ指導、啓発活動 (2) 登校時等の交通安全指導、人権教育指導 (3) 心のアンケート、迷惑調査等結果の活用 (4) 教員の資質向上と連携	(1) 過去のデータとの比較、外部からの評価 (2) 教員の客観的な判断 (3) 全ての訴えに対して迅速な対応 (4) 情報・意見交換の場を広く求める。

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
○身だしなみ検査は、今年度もコロナ禍で一斉に行うことができず、学年ごとの対応になった。 ○各クラスの生活委員やMSLを中心に、月一回の登校マナー及びあいさつ指導を実施した。 ○生徒によるハザードマップ作成や交通安全啓発運動(ポスター制作など)を行った。 ○いじめ対策組織を中心にした迅速かつ的確な対応ができた。	① マナー違反、遅刻者数が減っているか。 ② 交通事故数が減っているか。 ③ 対象生徒への対応は適切か。	A (B) C D A (B) C D (A) B C D

11 成果・課題	○ いじめを受けている生徒や生活に不安のある生徒への対応は、いじめ対策組織が有効に機能していた。教育相談担当も一人一人にきめ細かい対応を続けた。 ○ 情報モラルに関して本年度は大きな違反行為はなかった。今後も継続して啓発活動を行いたい。 ○ 昨年同時期と比較して遅刻数、交通事故数とも減少している。 ○ コロナ禍でも目標に向かって生き生きと活動する一部生徒の姿が感じられた。 ▲ 遅刻は減ったものの様々な場面でのマナー違反が目立った。相変わらず規範意識が低いなど社会性が乏しく、独善的な言動に陥りがちな生徒が散見する。	総合評価 A (B) C D
----------	---	-------------------

12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での新しい生活様式に加えて、校則の見直しなど従来の様式を変更させながら、より良い学校作りのために生徒の参加を促していく。 ・学校生活が大きく崩れているわけではないが、高校生としての考え方や社会の捉え方、ふるまい方などを様々な角度から習得させる必要があると思う。
------------------	--

令和3年度 自己評価

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号 15

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供やアドバイスの面で、生徒の「高・やや高評価」はやや増えたが、保護者の「高評価・やや高評価」はやや減少した。 ・一方、生徒、保護者ともに「分からない」が減少したが「やや低評価」が増加。 ⇒LHRの充実により情報提供量が増えたことで、生徒にはより情報を求める意識が高まったのではないかと考えられる。一方、保護者に対しては、育友会総会や研修会2年連続でできていないのに対し、情報提供を補えることができていないと考えられる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇進路実現に向けた効果的な指導の推進 ◇組織的に進路指導にあたることができる仕組みや体制の構築	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部内の業務・分担の明確化 ・学年会や他分掌との連携 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 系統的、体系的ガイダンス及びLHRの実施 (2) 学年、学科と連携した進路指導の充実と適切な情報提供	(1) 学年進行とともに進路希望の具体化の程度、および希望する進路先への決定割合 (2) 生徒・保護者等を対象とするアンケートによる評価の状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・1年生：職業理解と上級学年を見通すためのガイダンスを実施。小論文、実力診断テスト振り返りのLHRを新たに実施した。 ・2年生：職種・分野別説明会を2回実施し、進路選択に必要な情報を収集させた。実力診断テストを振り返り進路実現へ向けた取り組みを考えさせるLHRを新たに実施した。 ・3年生：外部講師によるマナー講座を新たに実施した。課題研究について全員にまとめシートを作成させ入社試験・入試選抜の準備をさせ、面接指導、推薦書調査書作成に活用した。進学研究クラブで国公立大学希望者への指導の充実を図った。学年会と連携し就職面接指導の充実を図った。 	① 学年進行とともに進路目標を明確化し、進路未定者が減少しているか。 ② 3年進級時には全員が進路希望を具体化しているか。 ③ 進学、就職ともに概ね希望の進路先に合格できたか(アンケートの満足度は高いか)。	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○3年生は、進学、就職いずれも希望を高いレベルで達成できたと考え。新たに取り組んだ指導の効果はあったと考える。 ▲保護者がどのような情報を求めているか、育友会研修会等ができない中で、直接声に触れる機会がない。効果的な情報提供の方法を考える必要がある。 ▲進学入試選抜への対応では、特に負担が増加している小論文、志望理由書作成の校内指導体制を組織化し、負担の分散化を図る必要がある。	
12 来年度に向けての改善方策	総合評価 A (B) C D	
<ul style="list-style-type: none"> ①進路情報提供において、オンラインの活用を工夫し拡大する。 ②指導時間が必要な小論文指導には全教員があたる体制を構築する。 ③ベテランの進路指導力を、若手教員が共有し発展させられるよう研修を行う。 ④国公立大学進学希望に対応できるよう、課題研究のさらなる充実を全学科にお願いしたい。 		

令和3年度 自己評価

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号

15

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。	
2 評価する領域・分野	◇特別活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒アンケート「本校では、生徒会活動が活発である。」、「本校では、部活動は適切に行われている」、「本校のホームルーム活動の時間は、今後の自分にとって意義のある内容になっている。」と捉えている生徒が7割以上である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇豊かな心をもつ自立した人間を育てるため、生徒会活動などの特別活動の活性化と充実を図り、感動と達成感のある教育を推進する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事の在り方を検討し、生徒の手による充実した行事や活動になるよう生徒会役員のリーダーシップを育て、円滑な運営と全生徒の積極的参加を促す。 ・部活動に積極的に取り組ませるための時間や場所を保障し、効率よく活動できるように支援する。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒会行事の精選と生徒会活動の充実 球技大会学年別実施、岐農祭校内のみ実施、体育的行事中止 (2) 部活動の活性化と充実 (3) 望ましい人間関係形成のためのホームルーム活動 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒会執行部会での綿密な話し合いと各HRの該当委員を中心とした活動の状況及び行事实施後の点検、反省 (2) 県大会以上の入賞数や全国大会出場などの大会結果と日常の活動状況の把握 (3) 委員会活動やホームルーム活動の把握 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> (1) 執行委員による定例会の開催。生徒会行事の早期計画と綿密な準備、円滑な運営。 (2) 部顧問とHR担任、及び部活動係との相互連絡。必要備品の整備。 (3) 各HR委員の自主的なホームルーム活動の実施。各分掌との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 定例会議を開き、早期に企画ができたか。 ⑤ 生徒の活動状況が把握できたか。備品の整備ができたか。 ⑥ LHRの充実が図れたか。 	<p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p>
11 成果課題	<p>○生徒会が中心となり、岐農祭など、できる範囲の活動を模索しながら縮小ではあるが、感染症対策を施しながら実施できた。</p> <p>○部活動において緊急事態宣言等で制限されることもあったが、全国大会や東海大会に出場し、活動する部や県大会で例年より良い結果を残せる部が増えた。</p> <p>▲学校行事やホームルーム活動において、主体的に活動できる生徒がリーダーシップを発揮している団体と、そうでない団体があった。リーダーの育成も必要である。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の在り方、実施時期など検討が必要である。岐農祭などもう少し早い時期に実施をしたいが他の学校行事との絡みなども考慮してよりよくできるようにしたい。 ・ホームルーム活動などをより活発に行えるように生徒会での定例議会などを充実させ、リーダー性を向上させたい。 		

令和3年度 自己評価

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号 15

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。	
2 評価する領域・分野	◇ 保健・厚生	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナに感染対策は消毒作業、黙食指導、健康チェックなど適切に行われているが、さらなる意識の向上が求められる。 ・防災に関してできる範囲で訓練を実施することができたが、マニュアル提示など、防災意識を高めることが必要。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 保健衛生：新型コロナ感染対策の徹底 (2) 防災：命を守る訓練の実施、防災意識の向上 (3) 環境美化：掃除道具の整備・清掃活動の強化、カーテンの整備 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・保健衛生は、保健主事を主にして新型コロナ対策を講じる。 ・防災は、命を守る訓練を実施し、防災意識の向上に努め、防災備品を整備する。 ・環境美化は、美化委員会を通して活動し、校内美化に努める。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 施設設備の消毒作業 (2) 登校時等の健康チェック (3) 命を守る訓練の実施 (4) 掃除道具、カーテンの整備 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 管理カードの提出後の確認 (2) 健康チェックカードの提出後の確認 (3) 訓練時の生徒の動向を観察 (4) 掃除道具などの点検 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ①保健：新型コロナ対策の実施 ②防災：命を守る訓練の実施 ③環境美化：掃除道具・カーテンの整備 	<ul style="list-style-type: none"> ①全職員で適切に対応できたかどうか。 ②訓練を適切に実施できたか ③掃除道具・カーテンの整備の実施状況 	<ul style="list-style-type: none"> Ⓐ B C D A Ⓑ C D A Ⓑ C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○保健：全職員で新型コロナ対応ができた。 ▲保健：長期に渡る対応で、職員の負担が大きく疲弊している。健康チェックが形骸化しないか懸念される。 ○防災：感染対策をした上で、命を守る訓練が実施できた。 ▲防災：これまで実施した形での避難訓練が実施できていない。生徒の防災意識はやや薄れている。 ○環境美化：掃除道具・カーテンの整備を精力的に実施できた。 ▲環境美化：カーテンの整備について、特別教室は十分ではない。掃除分担区域、範囲に対し、教職員の人数が少ない。 	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>保健：コロナ禍による新しい生活様式の定着を目指しながら、感染対策を確実に実施していく。</p> <p>防災：感染対策を講じながら、如何にして防災意識を高める訓練を実施するか検討する。</p> <p>環境整備：各特別教室における掃除道具、カーテンの整備を引き続き実施していく。</p> <p>生徒の美化意識の向上に努める。</p>		

令和3年度 自己評価

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号	15
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。		
2 評価する領域・分野	◇農業全般		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の専門教育に対する期待度は大きい。 ・地域人材を育成するふるさと教育や課題解決学習への注目が高い。 ・7学科がそれぞれの専門性を生かした教育を実施している。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動・教育環境の充実を図る。 ◇備品管理と安全教育の徹底を図る。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、農場会議、科長会、各学科会議 ・地域連携や地域社会との協働 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 課題発見・解決能力や自発的・創造的な学習態度の育成 (2) 大学や研究機関等との連携 (3) プロジェクト活動の質的向上 (4) 備品管理と安全指導の徹底	(1) 事後アンケート (2) 地域の声や生徒、保護者、職員の意見 (3) 各種メディアへの報道状況等		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1) 「課題研究」を通じた課題発見・解決学習の実施 (2) 職員一人一人の研究とプロジェクト学習のレベルアップ (3) 安全運転に努めることや作業点検カード、運転台帳への適切な記録	①課題研究の活動状況及び発表会 ②研究の実施状況 ③事故や怪我などの発生件数	A (B) C D (A) B C D (A) B C D	
11 成果 課題	○「課題研究」を通して課題発見・解決学習の充実を図り、自発的・創造的な学習態度を身につけさせるよう取り組むことができた。 ○地域資源を活用し地域産業界や大学等との連携の深化が図れ、充実した教育活動を行うことができた。 ○スーパー・インクワイアラー・ハイスクール事業や理数教育フラッグシップハイスクール事業で教科横断的な学習の推進ができた。また、ICTを活用した学びを充実し、生徒の思考力、判断力、表現力を高めることができた。 ○実習前・中・後の安全指導の周知徹底により、職員、生徒とも大きな怪我もなく取り組むことができた。 ▲コロナ禍における連携事業において、科学性の高い研究課題の発見や解決にいかに関わっていくかが課題である。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案			
<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に応じた、作目・畜目の検討と改善、学習内容の精選、DX関連装置の有効活用についての研究を進めるとともに、GAP、HACCPへの取組をより推進する。 ・実験・実習の見直しによる施設・設備の整備を計画的に進めるとともに、常に意識して備品管理と安全指導に取り組む。 ・科学性の高い「課題研究」に取り組めるよう職員が自己研鑽に努める。 ・働き方改革に対応できるよう、適正な圃場（飼養）規模と管理の在り方について改善を進める。 ・職員間の情報共有と協力体制を整える。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月21日

【意見・要望・評価等】

- ・ICT機器が、個別の学習支援やオンライン学習など、有効に活用されているのがよい。
- ・いじめや心の悩みを抱える生徒に対して組織的に、迅速かつきめ細かく指導されているのがよい。
- ・生徒ならびに保護者の満足度を高めるため、今後もきめ細かな対応とコミュニケーションを大切にしたい学校運営をお願いしたい。
- ・いじめ関連にはいつも心配をしているが、先生がよく声をかけていただけのため、ありがたく思っている。
- ・コロナ禍で特別活動や農業体験、国際交流など制限された事例が多くあると思う。校外の者にとっても、生徒の活躍する姿を直接みることができず残念に思っている。